

十勝岳稠密臨時地震観測で明らかになった地震活動と震源メカニズム

The seismicity and focal mechanisms at Tokachi-dake volcano revealed by a temporal and dense seismic network

和田 直人[1], 勝俣 啓[1], 笠原 稔[1]

Naoto Wada[1], Kei Katsumata[1], Minoru Kasahara[1]

[1] 北大・理・地震火山センター

[1] ISV, Hokkaido Univ

十勝岳における地震活動と震源メカニズムを求めるため、我々は1998年に稠密な臨時地震観測網を敷いた。解析の結果、地震はこの火口の辺りに集中していたことがわかった。また、観測の行われた6月中旬から8月の終わりにかけて、高い地震活動が2回確認された。最終的に、全部で939個の震源が求められ、深さの異なる3つの地震群が確認された。

メカニズムについては、特に一番浅い地震群中の1つについて、試行錯誤的に求めることを試みた。結果的に、水平なクラックが鉛直方向に開閉するモデルが最も観測波形を説明するものだった。合同大会では他の地震のメカニズムにも触れる予定である。

十勝岳における地震活動と震源メカニズムを求めるため、我々は1998年に稠密な臨時地震観測網を敷いた。全部で23個の地震計は最も活発な62 - 火口と呼ばれる火口の周辺に設置された。

解析の結果、地震はこの火口の辺りに集中していたことがわかった。また、観測の行われた6月中旬から8月の終わりにかけて、高い地震活動が2回確認された。最終的に、全部で939個の震源が求められた。また、深さの異なる3つの地震群が見つかり、高い地震活動の際には震源が浅い方へ移行していったことが確認された。

メカニズムについては、特に一番浅い地震群中の1つについて、試行錯誤的に求めることを試みた。結果的に、水平なクラックが鉛直方向に開閉するモデルが最も観測波形を説明するものだった。合同大会では他の地震のメカニズムにも触れる予定である。